

施設整備の方向性について

1. 基本構想時



-  現状のまま活用
 解体を検討
 改修・解体・建替えを検討

- ・現在の明和中学校敷地、校舎等を活用します。
- ・管理教室棟や屋内運動場は、大規模改造工事を実施済みであることから、新設校においても現状のまま活用を検討します。
- ・特別教室棟は、築年数（49年）や耐力度調査の結果を踏まえて、解体を検討します。
- ・普通教室棟（築47年、現在、倉庫等として使用、大規模改造工事未実施）は、改修のほか、解体・建替えを含めて検討します。小学校が統合することで不足する普通教室や特別支援教室等を整備するほか、児童クラブや校区公民館を整備します。

※ 上記内容を含めて整備の詳細な計画については、令和8年度に策定予定の基本計画の中で検討します。

2. 施設調査

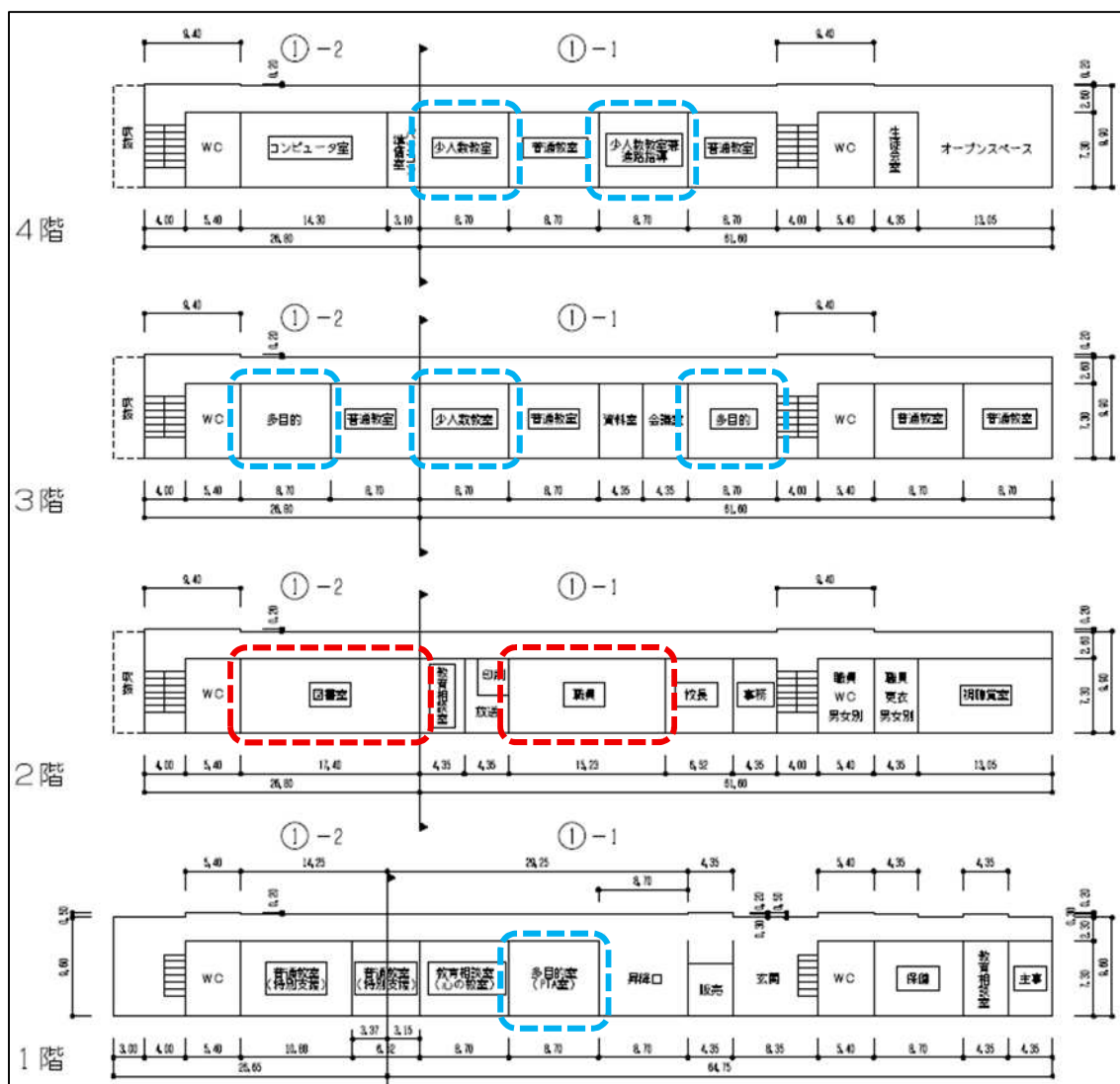
	調査等の状況	整備の方向性
管理教室棟	・階段の基準は小学校の基準※をクリア。 ※蹴上げ：16cm 以下 ・大規模改修も平成 26 年に実施済みで、著しい劣化は見られない。	➤ <u>現状のまま活用</u>
特別教室棟	・相応の劣化が見られ、耐力度調査の結果も建替えの目安に該当。	➤ <u>解体</u>
普通教室棟	・耐力度調査の結果は建替えの目安には該当しなかったが、渡り廊下部分に構造体の劣化がみられる。 ・長期間倉庫として利用されていたため、内装材に相応の劣化がみられる。 ・建設後、大規模な改修工事を実施していない。 ・既存の部屋は、一般的な教室としての利用しか見込めず、拡張性が低い。	➤義務教育学校としての拡張性を備えるとともに、地域とのつながりを更に深められるよう、 <u>新校舎として新たに整備</u>
校区公民館 児童クラブ	・新たに整備が必要。 ・施設の特性上、出入り口に近い場所が利用しやすい。	



3. 機能面等の方向性

- ① 既存施設の有効利用の観点から、管理教室棟の多目的室や少人数教室については、可能な限り普通教室としての利用を検討します。 ※下図青枠参照
- ② 図書館や職員室については、前期課程（小学校）と後期課程（中学校）の両方の機能を備えた1つの部屋としての整備を検討します。 ※下図赤枠参照
- ③ 新たに整備する校舎には、
 - ・地域利用を踏まえ、校舎の複合化を検討します。
 - ・特別教室（理科室や音楽室など）の整備を検討します。
 - ・エレベーターやバリアフリースイレの整備を検討します。
- ④ 既存の体育館に空調設備の整備を検討します。
- ⑤ 校庭に遊具（滑り台やブランコなど）の整備を検討します。

【現況の管理教室棟の間取り】



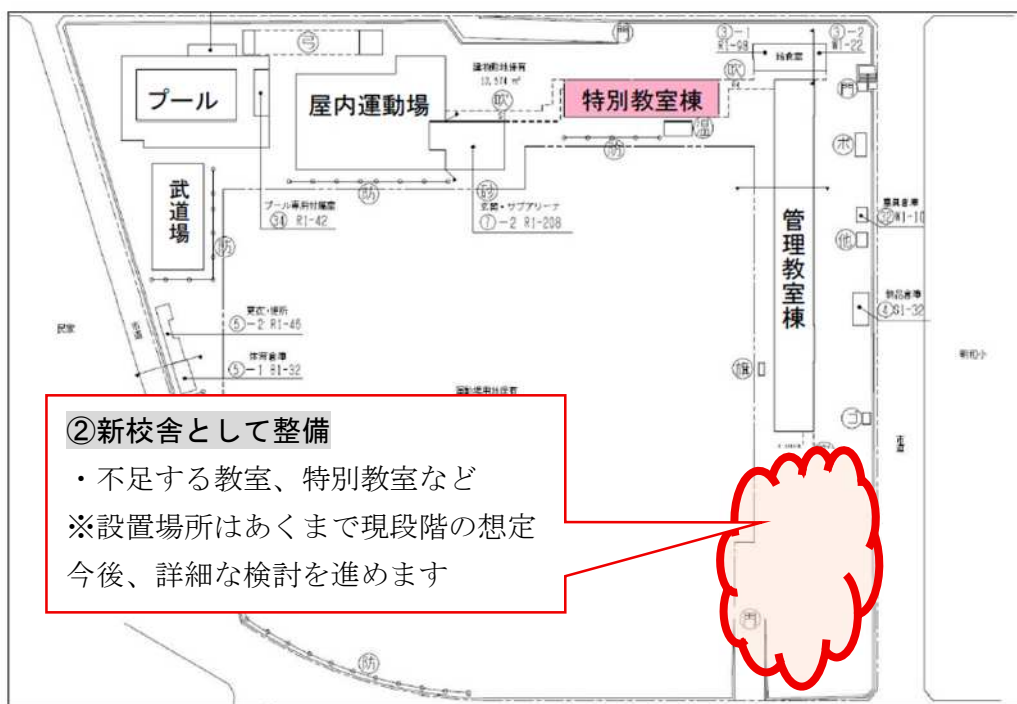
4. 工事の進め方のイメージ

【前提】教育環境の変化をなるべく小さくするため、仮設校舎の建設は行わない。

①普通教室棟の解体



②新たな施設の整備



③特別教室棟の解体・渡り廊下の整備



④整備後

